



下江 一将 議員
(清流会・かさいを育む会)

市長が考える「若者に選ばれるまち」と「人と人のつながり」とは



問 市長が掲げる「若者に選ばれるまち」としての本市の魅力は何と考えるか。

答 (市長) 一分野に秀でて、仕事、所得がなければ食べていけません。衣食住を整えることが非常に重要ですので、まず住環境、雇用環境を整備し、あらゆる分野の施策を充実させて総合力を高め、魅力を発信して選ばれるまちにしていきたいと考えます。

問 効果が出ているにもかかわらず委託廃止や縮小される判断をどのように考えているか。

答 (市長) 事業効果を一番分かっているのは、担当です。廃止や縮小は事業の効果測定の結果ですが、行政はトップが全てを判断するわけではなく、各担当が評価して予算を計上しています。

問 市長施政方針の中の人口減少を乗り越える力として、「人と人のつながり」が重要であると示されている。市長が考える「人と人のつながり」とは、具体的にどのようなものを指しているか。

答 (市長) 国の地方創生 2.0 の基本姿勢として、人口、生産年齢人口が減少する事態を正面から受け止めた上で、人口規模が縮小しても経済成長し、社会を機能させる適応策を講じていくことが打ち出され、そのために人を大事にする、そして楽しく働き楽しく暮らせる地域をつくることを目

指すとされています。加西市においても、既存のコミュニティとのつながりを大切に、伝統文化の維持保存に関わるとともに、外国人住民とのつながりも大切にするような施策を展開しています。

問 ビジネスコンテストの廃止や、中間支援団体への委託料削除という決定は、これまで参加・協力した方々が積み上げてきた人と人のつながりを絶ち切る可能性があるかと懸念する。想いや努力を理解した上で、今後の対応を考えていくことが必要ではないか。

答 (市長) 担当者がよく考え、総合的に判断した結果です。人とのつながりは重要な要素ですので、今後もコミュニティにおけるつながりを大切にしながら、人口減少に耐え得る地域づくりに努めます。



高見 博道 議員
(令和新風加西)

高等教育を含め加西市の教育について



問 加西市の目指す教育、高等教育も含めて、今後どのように進めていくのか、お考えをお聞きたい。

答 (教育長) 教育の基盤が人と人との関わりであること、加西の教育 3 本の矢を推進すること、3C 次世代型人材の育成を目指すことはこれまで何度も説明しています。あわせて、高校も含め、地域に愛着を持って何らかの形で関わったり、機会があれば帰ってきて地域に貢献する。そして、自分たちが受けた教育、加西市に対して誇りを持つ。そのような人材

を育てたいと思っています。教職員の確保や資質向上は本当に喫緊の課題となっています。学校によっては経験の浅い若い教員が、単学級の担任をしなければならない、または、臨時講師の教員が担任をしなければならないということはもう日常になっています。

加西市の目指す教育を実現するためには、まず教育を担う人づくりが大切です。教職員やこども園等、全ての教育機関において、オン・ザ・ジョブ・トレーニングに取り組むことが難しい環境ではありますが、それでも学校では非常に手厚く若い教員を育てようとしており、その中で教員は育っています。教育委員会としては、教員の負担にならないような研修体制をしっかり整えていくことが重要と考えています。教職員も仕事という面は非常に大事ですが、子供から様々な喜びを得るなど、教育

に対して願いと情熱を持って取り組めるよう、職場環境も含めて整えていきたいと思っています。

最終的には、全ての市民が加西市で教育を受けてよかったと、素直に言っていただけるような教育を展開したいと思います。

意見 教育とは国づくり、地域づくりににおいて大変重要と考えます。教育次第で出来上がると言っても過言ではありません。どんなに素晴らしい地域づくりのプランを考えても、そこに住む人がいないと何も起こりません。ぜひ加西市で子育てして教育を受けさせたい。そのために加西市に住みたい。そのように思ってもらえる加西市独自の教育を展開してほしいと思っています。

■その他の質問項目

・加西インター産業団地について